

インターバンクの声（2015 年 6 月 1 日）

5 月の最終営業日となった金曜日のニューヨーク市場は、朝方に発表された第 1・四半期の米国内総生産（GDP）改定値が市場予想の 1%近いマイナスよりも悪い結果となれば、連邦準備理事会（FRB）の年内利上げ観測が再び後退しかねないところだった。ところが、結果は前期比で年率 0.7%のマイナスに収まり、主要通貨が極端に反応するようなこともなく変化も限定的だった。むしろ、ドル円が明確に変化を見せたのは、その 2 時間ほど後に黒田日銀総裁から「G7 で量的緩和に対する批判的な発言はなかった」と記者団に伝わった後だった。それでもこの日の相場は 124 円前後を中心とする展開がニューヨーク市場終盤まで続いた。早いもので今週末の金曜日は、月初恒例の米雇用統計の発表だ。今週それまでに発表されるその他の米経済指標も注目ではあるが、なかなか雇用統計前に足許の水準から大きく離れるような仕掛けは出来ないだろう。イエレン FRB 議長の講演での発言から年内の利上げ観測が蘇った格好になっているが、雇用統計の結果次第では再び市場が混乱する可能性もあるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。